



Q：気管支ぜんそくについて教えてください

A：喘息を伴う発作性の呼吸困難を繰り返し生じる病気で、喘鳴とは、気道狭窄（きようさく）により呼吸時に生じるヒューヒュー、ゼーゼーという雑音のことです。遺伝子要因などの個体因子とアレルギーなどの環境因子が関係して慢性的な気道の炎症が生じ、気道過敏性が亢進して気道の浮腫、分泌物の増加、気管支平滑筋の収縮などにより気道狭窄や閉塞を起こすことが原因と考えられています。大気汚染、冷気など気候の変化、呼吸器感染症、喫煙、飲酒、運動、ストレス、解熱

鎮痛薬などの薬剤、月経・妊娠などさまざまな因子がぜんそく発作の誘因となります。

1年の中では、9月後半から10月末にかけての秋のシーズンが最もぜんそく発作の多い時期です。発作自体は通常は一時的なもので、気管支拡張薬の吸入などの治療でおさまりますが、気道の炎症が慢性的に続き、発作を繰り返ししていくとぜんそくが進行して



治りにくくなっていくため、現在では吸入ステロイド薬により長期的に抗炎症治療を行なっていくのが一般的となっています。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎055・288・1801